

2023年度

# 事業計画書

2022年度

# アクションプラン 年次報告書



学校法人二松學舎

<https://www.nishogakusha-u.ac.jp/>





# Contents

## 目次

<b>A. 2023(令和5)年度事業計画書</b> .....	1
<b>I. 法人の概要</b> .....	1
1. はじめに .....	1
2. 設置学校の概要 .....	2
3. 入学者数等 .....	2
4. 教職員数等 .....	2
5. 役員等一覧 .....	2
<b>II. 事業の概要</b> .....	2
1. 法人 .....	2
2. 大学(学部・大学院) .....	3
3. 附属高等学校 .....	5
4. 附属柏中学校・高等学校 .....	6
<b>III. 財務の概要</b> .....	7
<b>B. 2022(令和4)年度アクションプラン年次報告書</b> .....	9
1. アクションプランの構成と2022(令和4)年度版策定までのフロー .....	9
2. アクションプランの進捗管理 .....	9
3. 2022(令和4)年度アクションプランの概要 .....	10
4. 2022(令和4)年度アクションプランの進捗とその成果 .....	11
5. 2022(令和4)年度アクションプランのフォロー課題について .....	16

## I 法人の概要

### 1 はじめに

二松学舎は、1877(明治10)年10月10日、明治を代表する漢学者三島中洲が、現大学九段校舎の地(当時 麹町一番地)に漢学塾二松学舎を創設したことに始まり、漢学塾、専門学校、現在に続く大学の三つの時代を経てきた。この間、「国漢の二松学舎」として一貫して東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践、とりわけ国語や書道、中国語の各教科を担当する中等教育の教員養成に努めてきており、併せて創設以来伝統と実績のある国文学、中国文学における教育研究活動で成果を挙げている。1928(昭和3)年の二松学舎専門学校(旧制)設置以降、1948(同23)年には二松学舎高等学校(現附属高等学校)を開校し、1949(同24)年には新制大学へ移行。1966(同41)年に大学院文学研究科修士課程国文学・中国学専攻、博士課程中国学専攻を開校し、1969(同44)年には附属沼南高等学校(現附属柏中学校・高等学校)を設置し、九段並びに柏の両附属高等学校では「論語」を特設科目に置き全学年必修とするなど、建学の精神に沿った教育を実践してきた。1986(同61)年に大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程を開校、1991(平成3)年に国際政治経済学部を、2001(同13)年には同研究科修士課程を設置した。2004(同16)年には日本漢文学研究の分野で、文部科学省の21世紀COEプログラムに採択され、2015(同27)年には同分野で私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けた。2017(同29)年、文学部に都市文化デザイン学科を設置し、同年10月に二松学舎創立140周年を迎えた。また、2018(同30)年、国際政治経済学部国際経営学科を設置し、附属高等学校が70周年を、2019(令和元)年には附属柏高等学校が50周年を迎えた。更に、2022(同4)年4月に国際日本学研究所と文学部歴史文化学科を設置し、3研究科2学部6学科の体制となった。

教育研究環境整備の面では、九段3号館が2009(平成21)年7月に、九段4号館が2014(同26)年12月に竣工した。附属沼南高等学校では2011(同23)年2月に新体育館を建設、同年4月には新たに附属柏中学校を設置し、校名を附属柏高等学校に改称、中高一貫教育の実現を図った。また、附属高等学校では生徒募集および教育の抜本的見直しなど中期計画を段階的に推進するなど、大学・両附属高校でそれぞれ新たな教育改革計画が始動した。

2012(平成24)年の創立135周年を機に、建学の精神の具現化と特色ある教育研究の強化を図るため「長期ビジョン(N'2020 Plan)」を定め、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を2013(同25)年度より計画し実行してきた。さらに、2017(平成29)年の二松学舎創立140周年を機に、新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し、2030年に向けた本法人全体の指針として公表し推進することとした。2022(令和4)年10月に創立145周年を迎えた。

### ◆「N'2030 Plan」の概要

「N'2020 Plan」の基本方針を引き継ぎ、私学を取り巻く環境の激変に対応するため、役員、教職員、学生・生徒、父母、取引先などステークホルダーの意見を基に、2030年に向けた本法人の進むべき指針として「新長期ビジョン(N'2030 Plan)」を策定・公表した。①N'2020 Planの基本理念、フレームワーク等の踏襲 ②教育の方向性と充実策 ③包括的学生・生徒支援体制の構築 ④キャンパス整備 ⑤財政、人材育成、評価制度、組織、戦略的広報体制等の在り方 の理念・方針に沿って、5年間の「新アクションプラン」として目標を設定し達成に向け全学的に取り組んでいく。

#### 1. 「N'2030 Plan」の建学の精神に基づき育成する人間像

日本に根ざした道徳心を基に、良質な知識と英語・中国語等語学力を身に付け、我が国の歴史と文化を理解し、かかる知識を背景として、より良き社会を実現する目標をもって、グローバルに活動する逞しい人材の育成

#### 【実行計画】

- (1)大学、両附属高校、中学校の一段のブランドアップと目標とするベンチマーク校の設定
- (2)プラン全体の進捗状況可視化のためのKPI(重要業績評価指標)の設定とダッシュボードによる進捗管理
- (3)全てのステークホルダーによる課題共有化による目標達成

#### 2. 2030年型教育の方向性と充実策

- (1)二松学舎大学の教育改革 (2)二松学舎大学大学院の教育改革 (3)附属高等学校、附属柏中学校・高等学校の教育改革

#### 3. 包括的学生・生徒支援体制の構築

- (1)教務支援、学生生徒支援の充実 (2)進路支援の充実
- (3)学生や父母のニーズへの対応、父母会・松苓会(同窓会)等との連携強化 (4)クラブ・サークル活動支援

#### 4. キャンパス整備

- (1)二松学舎大学のキャンパス整備 ①九段キャンパス、柏キャンパスの整備拡充 ②サテライト施設の検討、ICT環境の充実 (2)附属高等学校のキャンパス整備 校舎リニューアルの検討
- (3)附属柏中学校・高等学校のキャンパス整備 既存施設設備の更新、柏キャンパスの有効利用



## 5. 財政、人事・評価制度、組織、広報体制の在り方

- (1) 財政基盤の維持・強化 (2) 教職員人材の育成と教職協働体制の維持・強化  
 (3) 人事・評価制度 ①適切な人事制度と公正な評価制度 ②教職員の能力開発、研修制度の充実  
 (4) 意思決定の効率化・迅速化 (5) 戦略的な広報体制、広報活動の推進 (6) 積極的な外部評価の受審

## 2 設置学校の概要

学校法人二松学舎は、文学部・国際政治経済学部と大学院文学研究科・国際政治経済学研究科・国際日本学研究科を擁する二松学舎大学とその併設校として附属高等学校・附属柏高等学校・附属柏中学校を設置している。

二松学舎大学は2017(平成29)年4月の文学部都市文化デザイン学科の設置に続き、2018(同30)年4月に国際政治経済学部国際経営学科を設置、更に、2022年(令和4)年4月、文学部歴史文化学科、大学院国際日本学研究科を開設した。

学生数は、大学学部が3,064人、大学院が82人、附属高等学校が752人、附属柏高等学校が1,037人、附属柏中学校が249人である。教職員数は、大学(大学院を含む)教員が74人、附属高等学校教員が38人、附属柏高等学校教員が48人、附属柏中学校教員が17人、事務職員が92人である。(2023(令和5)年5月1日現在)

## 3 入学者数等

(1) 入学者数 (各年度5月1日現在)

(単位:人)

区分	2021 (令和3)年度	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度
大学院	21	20	27
大学・学部	721	776	811
附属高等学校	274	232	262
附属柏高等学校	437	382	258
附属柏中学校	76	84	95
計	1,529	1,494	1,453

(2) 在籍者数 (各年度5月1日現在)

(単位:人)

区分	2021 (令和3)年度	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度
大学院	80	67	82
大学・学部	3,013	3,030	3,064
附属高等学校	715	703	752
附属柏高等学校	1,076	1,072	1,037
附属柏中学校	231	252	249
計	5,115	5,124	5,184

(3) 通常の学生生徒1人当り納付金 (2023(令和5)年度) (単位:千円)

区分	入学金	授業料	施設費等	計
大学院(前期・修士)	250	520	100	870
大学院(後期・博士)	250	520	70	840
大学・学部	250	796	250	1,296
附属高等学校	220	408	232	860
附属柏高等学校	150	324	330	804
附属柏中学校	200	348	330	878

## 4 教職員数等

人員計画<本務教職員数>(各年度5月1日現在)

(単位:人)

区分	2022(R4)年度 (A)	2023(R5)年度 (B)	増減 (B)-(A)
教員	178	177	△1
大学	75	74	△1
附属高等学校	38	38	0
附属柏高等学校	48	48	0
附属柏中学校	17	17	0
事務職員	92	92	0
計	270	269	△1

## 5 役員等一覧

理事 (11人)	理事長	水戸 英則
	常任理事	五十嵐 清、西畑 一哉、中山 政義 (二松学舎大学長)
	理事	鶴飼 敦之 (二松学舎大学附属高等学校長)、 七五三 和男 (二松学舎大学附属柏中学・高等学校長)、 牧角 悦子 (二松学舎大学文学部教授)、小町 邦明 (事務局長)、 佐藤 晋 (国際政治経済学研究科長・国際政治経済学部長)、武山 芳夫、大槻 奈那
監事 (2人)		根本 義尚、橋本 泰久
評議員 (24人/理事を除く)		島田 達彦、飛田 正太郎、山口 直孝、秋葉 一之、西園 隆士、志村 孝、家永 修、齊藤 定市、高柳 幸雄、大林 一夫、篠辺 修、渋谷 健、野島 透

(令和5年5月1日現在)

## II 事業の概要

### 1 法人

(1) 長期ビジョン「N'2030 Plan」による改革

二松学舎創立140周年(2017(平成29)年10月)を機に策定した新長期ビジョンN'2030 Planにより、「いままでの140年、これからの140年」をテーマに、建学の精神に基づき「豊かな人間力を有し、自ら考え行動する人材、人々の長い歴史と英知を擁する古典から未来を学び、的確な国語力を備えた真の国際人の養成」を基本とし、複雑化する社会のニーズに応える教育体制を構築する。

法人部門では、ガバナンスの充実・強化、財務の安定的な管理・運用、恒常的な寄付金募集体制の強化、補助金の獲得、適切な資金運用、法人財務格付の実施などにより、本学のブランド力の向上及び各設置校の志願者・入学者の増加・安定を目標とする。

- ①本学独自ガバナンスコードの策定・公表
- ②大学学部・学科の改編
- ③設置校の2030年に向けたカリキュラム改革
- ④附属柏中学校の定員確保
- ⑤KPIダッシュボードによる長期ビジョン「N'2030 Plan」の進捗管理
- ⑥日本私立大学協会「役員賠償責任保険」継続による危機管理

## (2) キャンパス整備

- ①二松学舎大学 ・九段キャンパスの整備・拡充 ・柏キャンパスの整備・維持
- ②附属高等学校 ・九段校舎リニューアルの検討 ・柏グラウンド活用体制の確立
- ③附属柏中学校・高等学校 ・既存施設設備の整備・充実

## 2 大学(学部・大学院)

### (1) 教育の方向性と充実策

#### ①新学科・新研究科の設置

2022(令和4)年度には文学部に新学科「歴史文化学科」を開設、大学院に新たな研究科「国際日本学研究科」(修士課程)を開設した。2年目を迎える本年度は、より充実した教育内容になるよう、文学部では教授会や学科会議、大学院では研究科委員会や専攻会議等で他学科や他研究科の事例も参考にしながら、検討、調整を進めていく。

#### ②新カリキュラム

2022(令和4)年度入学生から導入した新カリキュラムは、学生各自が所属する学部学科の専門性を身に付けるだけでなく、異なる学科の専門科目も履修することにより、多様な学びを実現できるようになっている。また、大学生としての基本的な教養や社会人としての基礎力を身に付けることを目的として、全学部生の共通科目として、基礎ゼミナール、自校教育科目、未来ビジョン科目、総合教育科目の区分を設けている。このカリキュラムにより、デジタル社会における素養を身に付け、さらに多様な視点をもって複雑化する課題に対応できる学生を輩出する。

#### ③IR(インスティテューショナル・リサーチ)

大学の諸活動に関する情報収集・分析を行い、大学の教育改善と教育改革につなげることを目的に、IR推進室を中心にIR活動を推進する。

また、学修成果測定プログラム(PROGテスト)の実施とポートフォリオへの掲載により、学修成果の客観的測定と可視化、自らの特性・適性を踏まえた就職活動指導などに活用する。

#### ④学生へのアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として学生による授業アンケートを実施し、学生の意識を調査・分析することにより、個々の授業の改善や今後の教育改革に役立てる。また、大学の諸制度に関する学生の実態・満足度調査を行い、問題意識と課題を共有し業務改善およびCS向上に繋げる。

#### ⑤学術研究支援等の充実

- ・教員養成の充実を目的として、本学卒業の現職教員に研修・再教育の場を提供し、「教育研究大会」を開催するなど教育支援を行う。
- ・東アジア学術総合研究所では、陽明学・日本漢学に関する研究や共同研究プロジェクトの推進を支援し、研究成果報告書の刊行を助成する。陽明学関係資料データベースを5ヶ年計画で構築する。
- ・「漱石アンドロイド」に係る大阪大学との共同研究により、大学・高等学校・中学校等での活用、講演・授業プログラムの開発ほか、シンポジウムの開催、次世代AIシステムの調査等を行う。
- ・研究室に設置の教員用パソコンを刷新し、オンラインやハイブリッド授業に対応できる性能のものを配置することで教育効果を高める。

### (2) 施設・設備の整備

#### ①教育研究環境の整備

新入生用ノートパソコンの配布(1人1台)、教育個人研究室パソコンの更新、ネットワーク管理システムの導入、教学システムの更新、九段1号館13階トイレの改修、柏1号館の内装工事、柏2号館空調設備の整備、柏校舎正門周りの改修整備などを実施する。

#### ②大学資料展示室の充実

二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の初版本・草稿類など文学界にとっても貴重な資料の収集と修復を行い、コレクションのさらなる充実を図る。収集した資料の常設展示、テーマを設けた企画展示や講演会を行う。また、施設整備の一環として展示ケースのクロスを貼替える。



### ③図書館の充実

図書館内外から利用できる電子書籍等のさらなる充実を図る。また、電子ジャーナル契約タイトルを見直し予算を効率的に執行する。

蔵書検索用PC(OPAC)及び学修支援用PCを入替え、利用者サービスの向上を図る。

## (3)学生支援の強化

### ①教学DXの推進

新カリキュラムの導入と併せ、「学修者本位の教育」の確立、また「教育の質保証」の観点から「学修成果の可視化」を推進するため、新たな学修支援ツールとしての「LMS」(Learning Management System)の早期導入を目指す。本システムの導入により、今まで以上に指導教員と学生間のコミュニケーションが促進されることが期待される他、ディプロマサプリメントとの連携により、学生各自が学修成果を客観的指標と共に容易に振り返ることが出来る仕組みを構築する。

### ②奨学金制度

学生生徒の就学意欲の維持向上、退学者の減少や学生生徒募集のためにも奨学金制度の拡充が重要であり、「授業料減免制度」や「貸与奨学金制度」等を含めて学生を支援する。2007(平成19)年度から二松学舎教育研究振興資金の募集により、毎年度奨学基金を増額しているほか、本学100%出資の事業会社である「二松学舎サービス株式会社」からの寄付金を原資とした「二松学舎サービス株式会社奨学金」や給付型奨学金付入試などを実施している。145周年事業の一環として奨学金制度充実のための見直しを図る。

### ③キャリア教育の充実

2030年度の社会構造や就職環境を見据え、多様な分野で活躍できるようキャリア教育を充実させる。マイクロソフトオフィススペシャリスト取得講座(MOS)、ITパスポート、サービス介助士講座、秘書検定講座など資格教育の充実、業界セミナー、大学と外部機関との連携体制の確立や企業との連携による職業適正検査などの実施、自己分析セミナーやキャリア形成支援ワークショップのほか、インターンシップによる職業体験や社会人基礎力の向上など、出口教育の充実・強化を図る。

### ④進路・就職支援

正課授業におけるキャリア教育のほか、キャリアセンターにおいて、公務員試験およびSPI対策講座、就職サポートプログラムによる講座の実施、各種業界セミナーや企業説明会のほか、エントリーシート・履歴書の添削指導、面接選考・グループディスカッションなど実践的な対策講座の実施により就職力の強化を図る。また、企業訪問や企業開拓・就職採用情報の収集を効果的に実施し、学生指導・就職情報の一元化による就職管理システムや常駐キャリアカウンセラーによる就職相談などのほか、オンラインも活用した面談や相談会の実施など学生の就職活動を支援する。

教職関連では、学習指導案の作成、模擬授業の実践、論作文添削、個人面接・集団討論などの個別指導により、実績のある国語科、書道科のみならず社会科、地理歴史科、公民科の教員養成の充実・強化を図る。各自治体教育委員会採用担当者による説明会や卒業生の現職教員と教員採用選考合格学生との懇談会、教員採用選考合格学生による下級生向けの合格報告会などを学内で開催するほか、教職のインターンシップである教職実務研修の実施、教職対策講座の開講などの各種取り組みにより、教職課程センターを中心に教員志望学生を支援する。

### ⑤グローバル化の推進

世界で広く活躍できる人材を育成するため、東アジアやその他地域の大学と提携し、留学生の派遣と受け入れ、相互交流のための環境整備と留学費用の助成制度の拡充、留学カウンセラーによる個別相談など留学支援体制を強化する。国際交流センターにおける外国語及び留学に係る自主的な学修機会の提供、試験対策講座の実施など語学センター機能の充実を図る。

短期海外語学研修(中国、韓国、英国、オーストラリア、カナダなど)の実施、文学研究科におけるダブルディグリープログラムの導入、相互留学支援や本学学生の留学機会を増やすため海外協定校の拡充を図ると共に、「認定留学制度」、「語学検定試験の単位化」について検討を進める。

また、「日本語・日本学特別プログラム」として中国の協定校から留学生を受け入れるほか、大学院留学生を対象にした「国際日本学特別プログラム」を継続して実施している。本学は「JCSOS海外留学安全対策協議会」に加盟しており、危機管理体制の万全を期す。

### ⑥学生相談室による支援

専任カウンセラーと専任教員を配置し、修学と学生生活の支援、メンタルヘルスの維持・促進、人間的成長・発達を目的として、大学生活における諸問題に関するカウンセリング、フリースペース(居場所)の運営、心理教育プログラムのほか、学生相談室主催のFD・SD活動として教職員・保護者へのコンサルテーションや研修を行う。新型コロナウイルス等による社会不安がみられる中で、メンタル不調等を訴える学生に対応し、専門カウンセラーの人数を増強しており、引き続き細やかな対応を図る。

### ⑦学生サポートの充実

「授業内容が聞き取れない、書き取れない」「板書や配布資料が読めない」など、障がい学生がより良い環境で授業を受けることができるよう、授業支援機材の導入、授業を筆記するノートテイク養成講習や障がい学生支援講演会

を実施し、サポートスタッフの育成と障がい学生等多様な学生に対する修学支援の充実を図る。

学生の日頃の悩みや不安を教員と相談できるスペースを確保するほか、学外団体の協力を得て、24時間電話で相談ができるシステムも導入し、学生生活を円滑に過ごすことができる取り組みを図る。

#### (4) 社会貢献

##### ① 地域と連携した教育研究事業

本学が所在する東京都千代田区や千葉県柏市との包括連携協定を締結し、その協定事業を行っている。千代田5大学(大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学)と千代田区との高等教育連携強化コンソーシアムにより、ボランティア活動、共同FD・SD、千代田区をフィールドにした課題解決プログラム、公開講座、シンポジウム、単位互換など学生交流の活性化や地域・産業界との連携を推進する。柏市との連携においては、柏キャンパス施設の柏市民への開放、災害時に地域住民の避難場所となるなど利用方法の多様化を推進しているほか、地域の教育振興として東葛飾地域の小学生を対象とした「夏休み子ども研究会」を例年実施している。また、大学図書館では特色ある本学図書館所蔵資料の公開や企画展、講演会の開催などを予定している。加えて、創立者ゆかりの岡山県倉敷市や夏目漱石ゆかりの神奈川県鎌倉市との連携事業の具体化についても検討していく。

##### ② シンポジウム等の開催

2005(平成17)年度より「シンポジウム『論語』」を開催し、さまざまな角度から『論語』へのアプローチを行っている。2009(平成21)年度から参加者の対象を広げ、『論語』と古典教養の普及を目指して「『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA -」を開催している。また、文学部、国際政治経済学部、東アジア学術総合研究所において、シンポジウムや公開講座などを開催する予定である。

##### ③ 産学連携への取り組み

民間企業との連携事業を推進し、相互の立場を尊重し対等平等の立場から、連携協定締結企業を対象とした産学連携による事業創造、人材育成、学術研究交流をはじめとする協力事業を行う。

#### (5) 学生募集対策

少子化が進む中で、アドミッションポリシーの確立、給付型奨学金付入試の実施、学生募集広報戦略検討会議による広報の見直しと強化、学部・学科別の広報戦略の立案など、多方面から学生募集対策を行う。また、早期募集活動の拡充、オープンキャンパス、模擬授業や見学会等の充実、OB教員および高校教員との情報交換、大学案内『VISION』、外国語版パンフレットや各種リーフレット、WEBでの情報発信、SNSによる広報活動と併せ、特に関東地区の高校生に向けた広報展開など学生募集対策の充実を図る。今後、高大接続改革の動向なども勘案しながら、より相応しい入試制度を検討する。

#### (6) 広報活動

① オフィシャルホームページ、中国語特設サイトの開設や受験生特設サイトを更に充実させる。学部学科ごとに専用のページを充実させ、学校紹介超短編動画を製作しWEBでの動画配信、SNSの活用などによる様々な情報の発信と学内外への掲示伝達機能を高め、対外広報の強化を図る。

② 本学独自のブランドイメージの確立と向上のため、「漱石アンドロイド」プロジェクトをはじめ、各種メディア対策を実施する。学生募集広報と法人広報の連携強化により、広告媒体の効果測定や見直しにより効果的・効率的な活動を行う。各種媒体を用いた直接的な広報活動のみならず、各種シンポジウムや講演会の実施など総合的な広報活動を展開させる。

#### (7) 卒業生情報の把握

松苓会(同窓会)と連携協力し、組織的な卒業生情報の管理の徹底を図る。卒業生間のネットワーク構築、情報交換により学内外の連携を強化し就職支援や学生募集に繋げる。

### 3 附属高等学校

#### (1) 教育の方向性

「心を育て 学力を伸ばす」というコンセプトの下、人格教育と社会で十分役立てるような学力養成を目指して教育活動を行う。

① 建学の精神の実践を全ての教育の基礎とし、二松学舎への愛校心を育てる。

② 『論語』、東洋の道徳に基づいた人格の陶冶、豊かな人間性を備え社会に貢献できる青少年の育成。

③ 学力の三要素を涵養するカリキュラムの構築とアクティブラーニングを通じた教育体制の充実による学力および進学実績の向上。

④ 新型コロナウイルス等の感染症予防対策を徹底した上で、教育活動との両立を図っていく。



## (2)教育の充実

外部講師による補助講習「学舎(まなびや)」を開講し、1年生は基礎学力定着講習、2年生は2学期から大学受験を念頭に置いた実力伸長講習、3年生は通年で特進・理系クラスを中心に受験力の強化を図る受験対策講習を実施する。平常授業期間の放課後実施する補習授業、夏期・冬期の長期休業中には、講習会・勉強合宿など特別講座を開講し、生徒の学力および進学実績の向上を図る。また、アクティブラーニングや思考力、表現力の育成を意識した取り組みなど授業内容を充実させ、英語4技能を測定する実力テストを1、2年生で実施する。

教育のICT化を推進し、教員及び全生徒がタブレットを活用し、授業での教育ツール、生徒や保護者とのコミュニケーションツール、成績推移やポートフォリオなどの進路相談ツールとして、さらに遠隔授業のツールとして活用の習熟度を上げていく。さらに、校内研究授業の実施、外部研修会への積極的参加など教員研修の充実を図る。

## (3)国際化への対応

英語の授業において、ネイティブスピーカーのALTを配置し、ネイティブの英語に触れる時間を設けている。また、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらオーストラリアでの短期ホームステイ海外語学研修を実施する。さらに、PC教室でのオンライン英会話レッスンにより語学教育を強化しレベルアップを図る。

## (4)スクールカウンセラーの配置

生徒のメンタルケアや保護者の相談に手厚く対応するため、スクールカウンセラーを校内に配置し、専門的立場から学園生活のサポートなどを教職員と連携して行う。

## (5)生徒支援

生徒の入学から卒業までの様々な状況に対応できるよう父母の会や同窓会等との連携を強化する。また、日常的な面接に加え、年2回面談週間を設定し生徒のサポートを行なう。

## (6)施設・設備の整備

附属高校では放送室の改修、防災設備の機器更新など教育環境整備を実施する。

## (7)広報・生徒募集対策

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、進学相談会、授業見学会、学校見学会、部活動に参加する「部活動体験見学会」などを開催し、9月より本格的な学校説明会を実施する。各取組みの質量両面での拡充や、中学・塾等訪問スタッフの配置による緻密な生徒募集を行い、志願者の増加および定着化を図る。また、ホームページを充実させ、各種入試イベント情報やWEB出願システムなど入試情報を見やすくするとともに、学校や生徒の様子を毎日ブログ発信し、受験生への情報伝達を強化する。

## (8)高大連携

二松学舎大学の教員による模擬授業を1・2年生の生徒全員が受講する。また、2年生の希望者が受講する「二松学舎大学『学び』のコース」(年8回の大学の各学部・学科の代表授業)を引き続き実施していく。

# 4 附属柏中学校・高等学校

## (1)教育の方向性

校訓である「仁愛・正義・誠実」と共に「自問自答」をキーワードとし、『論語』による人間形成を促し、未来を切り拓く「学力」を身に付けた人材を輩出する。

- ① 建学の精神を全ての教育の基礎として、二松学舎への愛校心を育てる。
- ② 『論語』、東洋の道徳に基づいた人格の陶冶、豊かな人間性を備え社会に貢献できる青少年の育成。
- ③ 学力の三要素を涵養するカリキュラムの構築とアクティブラーニングを通じた教育体制の充実による学力および進学実績の向上。

## (2)教育の充実

柏中学校・高等学校では、ネイティブの英語授業、国語、韓国語、中国語の選択講座を設定し、さらに内外の多様な語学研修への参加機会を提供する。

高校では、進学コースと特進コースに加えて、スーパー特進コースとして難関大学を目指すクラスを設置するなど目標・意欲の高い生徒を入学させ、生徒の学習に向かう態度と自己統率力の育成を行うなど、それぞれ特色ある教育の実践を図っている。中学校では、2022年度より「グローバル探究コース」、「総合探究コース」として、探究学習に重点を置くコース編成に変更し、充実を図っている。

体験学習としては、中学校では、「沼の教室」、「都市の教室」、「古都の教室」、「雪の教室」、「世界の教室」など、さまざまな行事の実体験を通じた教育を行っており、高校では芸術鑑賞会、2年次の海外研修体験を引き続き行っていく。座学では『論語』教育の実施を中心に、これからの時代に貢献できる十分な「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」を養成し、建学の理念の実現を目指す。また、中高ともにSDGsを軸とした「社会解決型PBL」、「SDGsコラボレーションプログラム」を通じて、具体的な社会貢献についての体験型学習を実施する。

このほか、オンライン授業等、通信環境の教育への活用についても積極的に推進していく。

### (3) 国際化への対応

台湾の桃園市私立新興高級中学(高校)やオーストラリアのクリーブランドハイスクールと相互交流をより深めるため交流協定を締結しており、相互の短期留学やホームステイを計画している。さらにカナダ、フィリピン、イギリスなどでの語学研修を中・高の学年やコースまたは希望者を対象に実施していく。

### (4) スクールカウンセラーの配置

生徒のメンタルケアや保護者の教育相談に手厚く対応するため、スクールカウンセラーを校内に配置し、専門的立場から学園生活のサポートなどを教職員と連携して行う。

### (5) キャリアプログラムの実施

中学生、高校生に対し、社会における職業的・社会的自立をするための考え方や能力開発教育を実施し、早い段階からの自己理解、社会人とのディスカッションなどを通して、将来の職業観を育成する。また、「二松柏キャリアデザインプログラム」に基づき、新しい進路指導の流れを明確化して指導に当たっているほか、「Google Classroom」、「スタディプラス」等のICTを活用した学習のPDCAサイクル確立の指導も行っていく。

### (6) 施設・設備の整備

当年度は、西校舎空調設備交換工事、東校舎屋上等防水工事、北校舎床等修繕工事(2ヵ年計画の2年目)、高校教室等電子黒板設置などを実施し、教育環境の向上を図る。

既存校舎の改修を順次実施しており、昨年度末には老朽化した東校舎・西校舎トイレのリニューアル工事を実施した。

### (7) 広報・生徒募集対策

近隣の小・中学校や塾との関係強化、訪問スタッフの配置(業務委託を含む)、情報交換会など、情報収集と各種メディアを使用した広報活動を行うほか、新型コロナウイルスの影響に対応するため、各種媒体への追加掲出も実施する。例年行っているネイティブスピーカーによる小学生対象の英語教室や、地域の小学校高学年を対象とした勉強会など、積極的な地域活動により知名度の向上を図り、附属柏中学校の入学者獲得について法人全体で取り組む。また、創立145年記念事業として、2022年度にラッピングをリニューアルしたスクールバスを運行し、地域にアピールしている。バスのルートについては、柏駅・我孫子駅の他に新鎌ヶ谷方面に便を拡充しており、これまで通学が不便であった地域の受験者層開拓を進めている。

### (8) 生徒支援

生徒による授業アンケート、卒業生と保護者の満足度調査、教員による学校評価(自己評価)を実施し、それに基づく教育の改善を図る。また、「主体的・対話的で深い学び」を目的とした「アクティブラーニング」による各教科における授業実践の継続実施を行う。ベネッセが提供する生徒の学力と学習習慣をチェックする「スタディーサポート」や模試のデータなどを活用して学習指導や進路指導を行なうプログラムである「ファインシステム」を使った担任の面談を増やし、タブレットで情報を共有するなど、学力不振者への補習、不適應者へのカウンセリングなどきめ細かな対応を行う。このほか、「放課後学習センター」を継続実施し、生徒一人一人の放課後における学習サポートを更に強化する。

### (9) 高大連携

高大接続改革への対応として、大学教員による高大一貫教育を高3選択授業(金5・6限)で実施している。二松学舎大学を第一志望とする生徒の受講指導を行う。

## Ⅲ 財務の概要

少子化をはじめ私学を取り巻く環境や社会経済状況の大きな変化の中で、本学が名実ともに発展していくためには、健全な財政運営に留意し、内部留保の蓄積など堅固な財務基盤を維持する必要があり、以下の骨子を内容とする抜本的な財務改革を実行し効率的な財政運営を図る。

### (1) 本源的収入は学納金、補助金が主体

学生生徒等納付金、各種補助金を本源的収入とし、寄付金、資金運用、施設貸出その他事業収入は補助的収入として、それぞれの増収を図る。

### (2) 学納金収入の安定的確保

本学卒業教員ネットワークの更なる充実、教職課程の改革による教員採用実績の引き上げ、公務員や著名企業への就職率の向上など、学生募集力の強化を図る施策に加え、中途退学者の減少策、両附属高等学校から大学への内部進学者数の安定的確保により、長期的かつ安定的な学納金収入の確保を図る。

### (3) 補助金の獲得

補助金制度について、学内外の研修を通じ制度の理解と事業展開を促し更なる補助金の獲得を図る。科学研究費補助金のほか、産・学・官連携を推進し競争的補助金の獲得を積極的に行う。

### (4) 寄付金募集

「二松学舎教育研究振興資金」制度による寄付金募集を実施し、恒常的な寄付金収入の定着を図る。



## (5) 資金運用関係

中長期的な財政基盤の強化を図るとともに将来の教育研究の発展に資するため、資金運用リスク管理体制に基づき安全かつ慎重な運用を基本とし、効率的な資金運用により収入増を図る。

## (6) 経費の削減

部署別予算管理の推進により、事務の効率化と既存事業の見直しを行い、経常的経費の削減を実施する。スクラップ・アンド・ビルドによる事業の推進、業務のアウトソーシング、DX等により直接的及び間接的コストの削減を図る。

## (7) 事業会社の活用

本学出資の事業会社「二松学舎サービス株式会社」は設立17年を迎えた。事業会社の業務内容の拡充により収益の拡大を図るとともに、学生サービスの向上、事務処理の効率化、グループ全体の経費節減を目指す。

なお、二松学舎サービス株式会社から本学の役員並びに教職員への報酬・給与等の金銭の支払いは行われていない。

## (8) 外部評価の受審

第三者機関による評価として、大学基準協会による大学の認証評価および格付機関(株式会社格付投資情報センター)による法人の財務格付評価を受けており、評価の維持向上に努めるとともに、必要に応じて外部コンサルタントの意見を受け入れるなど、運営の透明性と公平性に留意した法人運営を行う。

## 事業活動収支予算書

(単位:百万円)

		2023 (令和5) 年度予算額	2022 (令和4) 年度決算額
教育活動収支	事業活動収入		
	科 目	金 額	金 額
	学生生徒等納付金	4,661	4,559
	手数料	126	132
	寄付金	54	96
	経常費等補助金	1,130	1,137
	付随事業収入	6	6
	雑収入	172	191
	教育活動収入計	6,148	6,121
	事業活動支出		
科 目	金 額	金 額	
人件費	3,118	3,094	
教育研究経費	2,221	2,275	
管理経費	533	545	
徴収不能額等	3	7	
教育活動支出計	5,875	5,921	
教育活動収支差額	273	200	
教育活動外収支	事業活動収入		
	科 目	金 額	金 額
	受取利息・配当金	241	257
	その他の教育活動外収入	2	6
	教育活動外収入計	243	263
	事業活動支出		
	科 目	金 額	金 額
	借入金等利息	3	5
	その他の教育活動外支出	-	28
	教育活動外支出計	3	33
教育活動外収支差額	240	230	
経常収支差額	513	430	
特別収支	事業活動収入		
	科 目	金 額	金 額
	資産売却差額	-	212
	その他の特別収入	9	74
	特別収入計	9	285
	事業活動支出		
	科 目	金 額	金 額
	資産処分差額	7	97
	その他の特別支出	-	0
	特別支出計	7	97
特別収支差額	1	188	
基本金組入前当年度収支差額	515	618	
基本金組入額合計	△ 504	△ 525	
当年度収支差額	10	93	
前年度繰越収支差額	△ 2,713	△ 2,806	
翌年度繰越収支差額	△ 2,703	△ 2,713	
(参考)			
事業活動収入計	6,400	6,669	
事業活動支出計	5,885	6,051	

## 資金収支予算書

(単位:百万円)

科 目	2023 (令和5) 年度予算額	2022 (令和4) 年度決算額
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,661	4,559
手数料収入	126	132
寄付金収入	54	96
補助金収入	1,136	1,207
資産売却収入	1,000	1,251
付随事業収入	8	12
受取利息・配当金収入	241	257
雑収入	172	191
借入金等収入	1	0
前受金収入	743	770
その他の収入	391	427
資金収入調整勘定	△ 940	△ 1,287
当年度資金収入合計	7,592	7,616
前年度繰越支払資金	4,917	4,930
収入の部合計	12,510	12,546
支出の部		
人件費支出	3,126	3,117
教育研究経費支出	1,620	1,661
管理経費支出	511	548
借入金等利息支出	3	5
借入金等返済支出	299	300
施設関係支出	124	304
設備関係支出	273	189
資産運用支出	1,379	1,534
その他の支出	385	421
資金支出調整勘定	△ 363	△ 449
当年度資金支出合計	7,357	7,629
翌年度繰越支払資金	5,151	4,917
支出の部合計	12,510	12,546

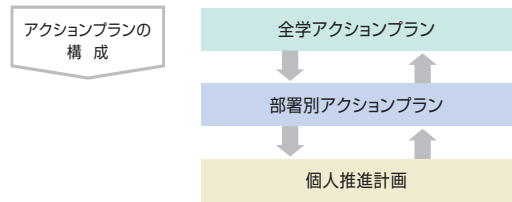
注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

# B 2022(令和4)年度アクションプラン年次報告書

## 1 アクションプランの構成と2022(令和4)年度版策定までのフロー

本学のアクションプランは、長期ビジョン「N'2030 Plan」の具現化のための行動計画であるが、向こう5年間の全学的課題を一覧化した「全学アクションプラン」と、「全学アクションプラン」推進のための各事務担当部署の諸課題をまとめた「部署別アクションプラン」の2層構造となっている。

また、「部署別アクションプラン」の課題を、個人が担当する業務にまでブレイクダウンさせ、個人毎の推進計画として設定している。



## 2 アクションプランの進捗管理

アクションプランの進捗管理は、次のような体制で行っている。

### (1) 管理体制

アクションプラン全般については、「アクションプラン推進管理委員会」においてその進捗を管理している。原則月1回開催して進捗状況の報告・確認を行い、各委員から示された意見の内、計画に反映すべきものは年次更新の際に適宜「全学アクションプラン」に織り込み、修正を行っている。

また、前年度に進捗が見られなかった課題の中から複数の「重点課題」を選定し、当年度も継続してその進捗をモニタリングしている。

### (2) 経営層と部課長とのミーティング

各年度初めには常任理事・事務局長等の経営層と事務組織の部課長とのミーティングを実施している。各部署の「部署別アクションプラン」進捗状況、今後に向けた取り組み方針等について意見交換を行い、各部署が直面している重要な課題について、経営層と担当部署との情報の共有化を図っている。

### (3) 二松学舎KPIダッシュボードによる進捗の可視化

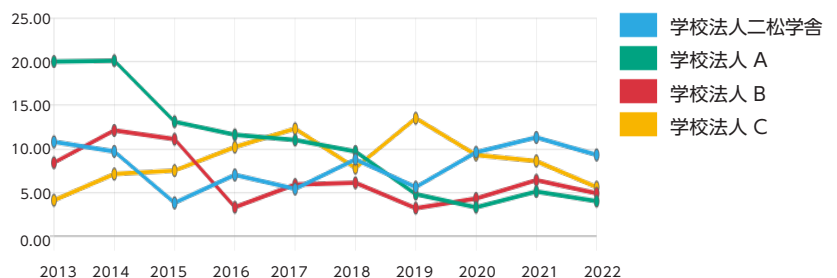
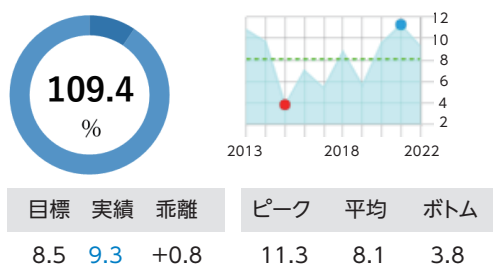
アクションプランの進捗を可視化するため、2018(平成30)年度から二松学舎KPIダッシュボードシステムを導入した。「①経営基盤」、「②入学(入口)」、「③教育(在学中)」、「④就職(出口)」、「⑤卒業後」の5つの局面について、関係指標を「コア指標」と「レファレンス指標」とに分類し、約30項目程度を一覧化し、管理している。設置校ごとに競合する他大学等をベンチマーク校として4～5校設定しており、各種数値の比較・差異の要因分析を実施している。

N'2030 PLAN KPI DASHBOARD

		経営基盤	入学(入口)	教育	就職(出口)	卒業後
コア指標	積立率		志願者倍率等	学生満足度	就職率	現住所把握率
	事業活動収支差額比率		入試難易度(偏差値)	授業評価	大企業就職者数(従業員3千人以上)	
	経常収支差額比率			授業外学習時間		
	教育活動収支差額比率			DP達成度(PROG)		
				DP達成度(実態・満足度)		
レファレンス指標	戦略指標	収容定員充足率	HPアクセス数	受入・派遣留学生数	金融業就職者率	寄付金額
		入学定員充足率	給付奨学金額	海外交換留学協定校数	公務員試験合格者率	寄付金件数
		志願度・人気度		ラーニング・コモンズ活用度	教職採用者数	
		運用資産余裕比率	入学選抜方式別追跡調査結果		本学出身者が代表を務める組織数	ホームカミング参加率
			偏差値別出身校		上場企業内定者数	

【KPIダッシュボードシステム画面】

事業活動収支差額比率(%)





前ページ下段の図は本学のKPIダッシュボードシステムの画面の一部である。左の図の「目標」欄には本学のアクションプランで定めた最終目標値又はベンチマーク校の過去10年間の平均値を示す数値を、「実績」欄には本学の当該年度の実績値を表示して、目標達成までの数値を「乖離」欄に示すことで、進捗状況を可視化している。円グラフは、目標に対する進捗度を示し、その隣折れ線のグラフは本学の当該数値のピーク値とボトム値がわかるように経年変化を示している。

右の図は、ベンチマーク校と本学の経年変化を同時に示すことで、本学の立ち位置も可視化している。ベンチマーク校を設定しない本学独自のKPI項目もある。

#### (4) アクションプランの年次更新について

本学の長期ビジョン「N'2030 Plan」を具現化するための行動計画である「アクションプラン」は、1年経過毎に微修正を加える「ローリングプラン」となっているが、その更新作業は次の通り行っている。

まず「部署別アクションプラン」に各部署が掲げた具体的課題について、学内のグループウェア上で各課長が年度終了時に進捗状況を入力する。次に、課題毎に定めた「担当理事」が各課題の進捗状況についてコメントを付し、評価を行う。

その結果を基に、各部署は次年度の「部署別アクションプラン(原案)」を策定し、常任理事・事務局長・学務局長とのミーティングを経て、当該年度の「部署別アクションプラン」を確定させる。

確定した各部署の「部署別アクションプラン」を企画・財務課が取り纏め、「全学アクションプラン」への修正が必要な点を反映させ、「アクションプラン推進管理委員会」で当年度の「全学アクションプラン」(原案)の検討を行う。続いて、理事会へ「全学アクションプラン」(案)を付議し、審議を経て、当年度の「全学アクションプラン」を確定、ホームページ等を通じて学内外に公表している。

このように「部署別アクションプラン」、「全学アクションプラン」それぞれにPDCAサイクルを機能させることによって、時代の要請や環境の変化を速やかに取り込むことが可能となっている。

### 3 2022(令和4)年度アクションプランの概要

#### (1) 全学アクションプラン

「全学アクションプラン」には、本学の様々な課題を網羅的に掲載している。課題は、大きく「建学の精神と二松学舎憲章」、「二松学舎大学・大学院の教育改革」、「附属高等学校の教育改革」、「附属柏中学校・高等学校の教育改革」、「財務、人材育成、評価、組織、広報、その他」の5つに分け、課題の内容毎に分類している。

全学アクションプランに掲げた主な課題は次のとおりである。

<b>I 建学の精神と二松学舎憲章</b>	
内容	①建学の精神の学内外への浸透、②二松学舎憲章の普及、③創立150周年に向けた150年史の編纂、④創立150周年記念式典の実施
<b>II 二松学舎大学・大学院の教育改革</b>	
内容	①21世紀型教育体制の構築、②次世代型新カリキュラムの編成、③開講科目数の適正化、④教育・研究環境整備、⑤教学ガバナンスの確立、⑥FD活動の見直し・体系化、⑦第3期認証評価結果への対応、⑧教学DXの推進、⑨自校教育の導入・充実、⑩アセスメントポリシーの策定と成績評価制度の見直し、⑪学生満足度の向上、⑫グローバル化の推進、⑬体系的キャリア教育の導入・実施、⑭教職採用者数の維持、⑮産学連携の推進、⑯地域社会との連携強化、⑰研究内容のレベル維持、⑱研究科組織の見直し、改編、⑲科研費採択件数の向上、⑳漱石アンドロイド学術研究の推進、㉑奨学金制度の見直し、㉒課外活動充実策の抜本的見直し、㉓就職率の向上、維持、㉔学生情報(教育成果)の管理、活用推進、㉕外国人留学生在籍者数の安定的確保、増員、㉖新入試制度への対応、㉗退学率の低減、㉘九段キャンパスの整備・拡充、㉙柏キャンパスの整備・維持、㉚附属図書館(九段・柏)の蔵書精査
<b>III 附属高等学校の教育改革</b>	
内容	①自校教育の推進、②新大学入試制度への対応、③難関大学への進学実績向上、④生徒平均学力の向上、⑤二松学舎大学への進学者数の安定・維持、⑥生徒募集力の強化、⑦生徒・保護者満足度の向上、⑧教育環境の整備・充実
<b>IV 附属柏中学校・高等学校の教育改革</b>	
内容	①自校教育の推進、②新大学入試制度への対応、③難関大学への進学実績向上、④生徒平均学力の向上、⑤二松学舎大学への進学者数の安定・維持、⑥生徒募集力の強化、⑦生徒・保護者満足度の向上、⑧教育環境の整備・充実、⑨二松学舎教育振興資金の計画的獲得
<b>V 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他</b>	
内容	①KPI目標数値の達成、②強固な財務基盤の維持、向上、③奨学金制度の整理・体系化、④収入源の多様化と安定的収入の確保、⑤寄付金収入の安定的確保、⑥財政基盤の維持、⑦二松学舎SD計画の推進、⑧人事計画の見直し、⑨人事評価制度の改善、⑩働き方改革、⑪法人ガバナンスの検証、改善、⑫知名度の向上、⑬業務の効率化、⑭既存施設の維持、改善、⑮BCP(事業継続計画)プランの策定

## (2) 部署別アクションプラン

各事務担当部署では、「全学アクションプラン」の課題のうち、所掌する具体的な課題について「部署別アクションプラン」を毎年度作成し、計画を管理、推進している。

2022(令和4)年度は、各部課長が前年度の「部署別アクションプラン」の達成度合いを報告後、各部課長と経営層とのミーティングを実施し、前年度の「部署別アクションプラン」の進捗状況や、実行にあたっての問題点について意見交換を行った。その結果明らかになった問題点や社会情勢の変化を踏まえ、各部署で前年度の「部署別アクションプラン」を見直し、2026(令和8)年度までを期間とした「2022(令和4)年度部署別アクションプラン」を作成して推進した。各事務担当部署が掲げた課題の概要は次のとおりである。

部署名	主な課題
総務・人事課	150周年史編纂業務担当者の選任／SD計画の体系整備及び実施検証／ガバナンスコードの学内研修による周知／業務効率化に向けた各種取り組みの実施／働き方改革への対応指針の検討／危機管理マニュアルの作成／九段キャンパスの長期修繕計画実施
広報課	広報活動の改善／創立150周年史編纂事業への取り組み／地域連携に係る広報展開
情報システム管理室	学生対象ノートPC貸与計画の実施／学内ネットワークのさらなる増強／オンライン会議ツールのライセンス数の見直し
企画・財務課	創立145周年記念事業の実施／KPIダッシュボードシステムの運用・見直し／ベンチマーク校とのKPI差異要因の分析／九段5号館の整備／附属高校の施設拡充策の検討
経理課	各種財務指標改善計画の検証・見直し／法令改正に伴う対応方針の検討
教学DX推進室	次期基盤システムの検討、選定／LMSの検討、選定
柏事務課	柏キャンパスの危機管理対応マニュアル作成及び柏市との防災対策の見直し／柏キャンパス長期修繕計画の段階的実施／柏地域の地域連携活動支援／柏地域の産学連携活動の業務支援
地域連携室 産学連携室	千代田区地域の連携強化のための事業検討／産学連携の推進
大学改革推進課	21世紀型教育体制の構築／千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムへの参加・連携／科研費採択件数の向上／私立大学等改革総合支援事業の採択／教学ガバナンスの確立／第三期認証評価結果への対応／授業アンケート分析結果等を活用したFDの実施／アセスメントポリシーの策定
IR推進室	IR活動の活性化／認証評価結果を踏まえたPDCAサイクルの改善
入試課	新入試制度への対応／知名度の向上／外国人留学生の受け入れ
教務課	21世紀型教育体制の構築／次世代型新カリキュラムの運用／学生貸与PC活用方策の検討／アセスメントポリシーの運用／新ディプロマポリシーの運用／学生ポートフォリオシステムの運用／新LMSの検討
学生支援課	学生満足度のさらなる向上／高等教育無償化への対応／課外活動支援／アフター・コロナの中での学生支援／退学者の要因分析と対策検討
国際交流センター事務室	留学支援制度の充実／海外協定校増加に向けた取り組み／語学センター機能の改善策の検証／外国人留学生受入増員策の検討／Webサイトの有機的活用策の検討
図書課	創立150周年史編纂事業への取り組み／千代田区・柏市との連携強化／図書館の設備検討／電子書籍の充実／ラーニング・コモンズ設備の検討
教職課程センター事務室	教員採用試験合格対策の実施／採用選考対策の実施／学生ポートフォリオの活用促進と検証
キャリアセンター事務課	体系的キャリア教育の導入・実施／学生情報(教育成果)の管理、活用促進／公務員採用試験合格者の増加対策／実業界OB・OGネットワークの検証と見直し
附属高等学校事務室	難関大学への進学実績向上／生徒募集力の強化／新大学入試制度への対応／生徒・保護者満足度の向上
附属柏中高事務室	難関大学への進学実績向上／生徒募集力の強化／新大学入試制度への対応／生徒・保護者満足度の向上

## 4 2022(令和4)年度アクションプランの進捗とその成果

2022(令和4)年度における主要課題の進捗・成果は次のとおりである。

### (1) 建学の精神と二松学舎憲章

#### ① 建学の精神の学内・学外への浸透

2022(令和4)年度には、新書『明治10年からの大学ノート 145周年記念版』を刊行し、建学の精神の学内・学外への浸透を図った。読売新聞社の活字文化推進会議と共催でイベントを開催し、読売新聞を通して浸透を図った。

### (2) 二松学舎大学・大学院の教育改革

#### ① 新カリキュラム編成と教育改革

本学が掲げる「21世紀型教育体制の構築」の要となる「次世代型カリキュラム」の編成を行い、2022年度に導入した。新カリキュラムでは、所属学部に関わらず履修することとなる基礎科目や自校教育科目、ICTリテラシーの習得を目指す数理・データサイエンス・AI関連科目等が初年次～二年次に配置され、三年次～四年次の専門科目履修へと繋がる構成になっている。

また、ICTインフラの充実を目指し、無線LAN通信回線の大容量&高速化、学生一人につき一台のノートPCを「在学中無償貸与」する制度を構築し、2021年度入学者からスタートさせるなど、Society5.0時代に求められる人材育成に向けた環境整備を実施した。

更に、大学組織の見直しを行い、2022年4月に文学部4番目の学科となる「歴史文化学科」、新たな研究科となる「国際日本学研究科」及び文学部都市文化デザイン学科の外国人留学生3年次編入学特別枠を開設した。

### ②アセスメントプランの運用開始

二松学舎大学は、学生の入学時、在学時、卒業時の段階において、それぞれ客観的な指標に基づき学修成果の評価・測定を実施し、それを踏まえて3つのポリシー（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく教育課程が有効に機能し、教育上の目標が達成されているか検証を行う体制を整えた。

本アセスメントプランの概要は二松学舎大学HP上で公開している。

### ③新ディプロマサプリメントの運用開始

ディプロマサプリメントとは大学において学生が取得した学位・資格・能力・知識等の学修成果について対外的に可視化するため、卒業証明書等とは別に文章やグラフで補足する資料。

この資料は、大学卒業者を採用する際に、就職先となる企業等の採用プロセスにおいて有効に活用されることが想定されている。

二松学舎大学では、2021年度卒業生から試行導入したディプロマサプリメントを、2022年度に諸々の改革を反映し、本格運用を開始した。

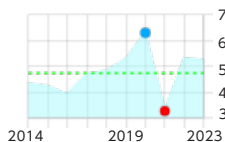
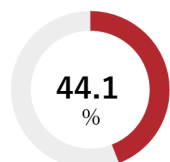
### ④大学志願者数について

大学における2023（令和5）年度入試では、文学部の志願者倍率は若干の減少となった。国際政治経済学部は若干の増加となった。大学ごとに入試制度が異なるため倍率の大小だけで単純な比較はできないが、18歳人口が減少する中、安定的な受験倍率を維持している。

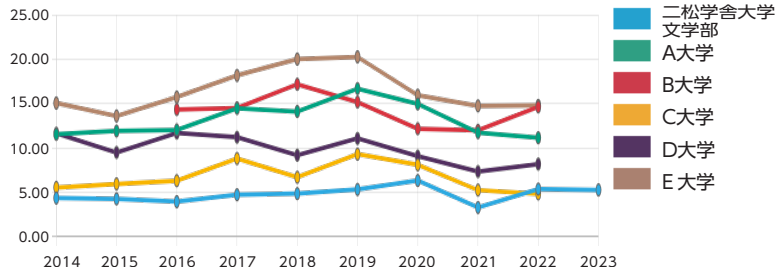
2022（令和4）年度に実施した広報媒体の効果検証を通じた改善活動、受験生サイトの積極的活用など受験生目線に立ったHP運用により文学部、国際政治経済学部共に、2023年度は前年度並みの高い志願者倍率を達成した。

〔二松学舎大学文学部の志願者倍率〕

志願者倍率

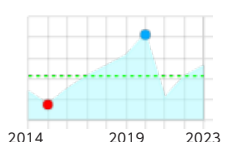
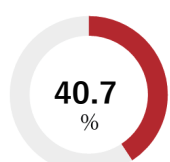


目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
11.88	5.24	-6.64	6.30	4.74	3.26

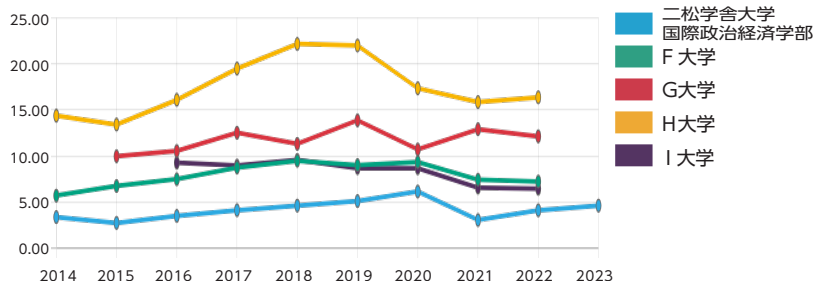


〔二松学舎大学国際政治経済学部の志願者倍率〕

志願者倍率



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
11.32	4.61	-6.71	6.13	4.12	2.73



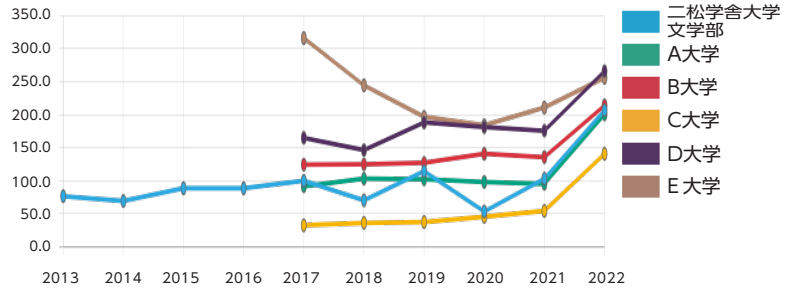
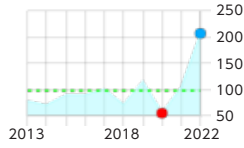
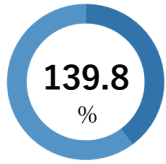
### ⑤学術成果

文部科学省の補助金制度である2022（令和4）年度私立大学等改革総合支援事業では、「タイプ3 地域社会への貢献（プラットフォーム型）」を申請、採択された。上記の他、戦略的研究基盤形成支援・COEなどの採択型補助等の採択件数及び教員1人あたりの科研費採択件数を合成指標にして、学部ごとにKPI項目「学術成果」を定めている。当KPIの現状は以下のとおりである。



### [二松学舎大学文学部の学術成果]

学術成果

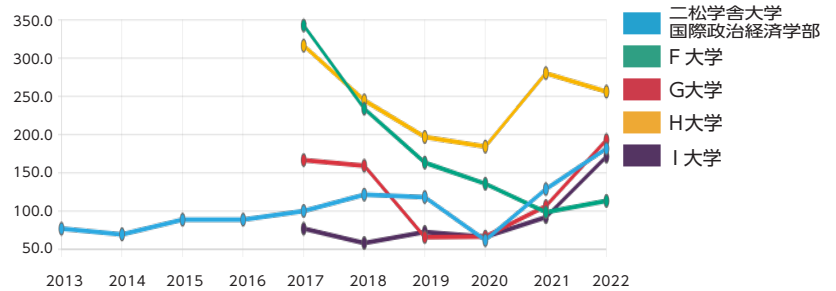
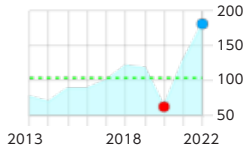
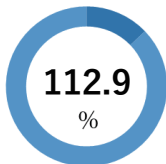


目標	実績	乖離
147.9	206.8	+58.9

ピーク	平均	ボトム
206.8	97.2	53.7

### [二松学舎大学国際政治経済学部の学術成果]

学術成果



目標	実績	乖離
160.7	181.4	+20.7

ピーク	平均	ボトム
181.4	103.4	61.9

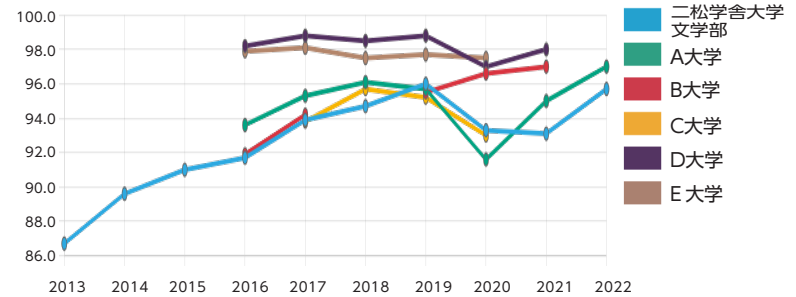
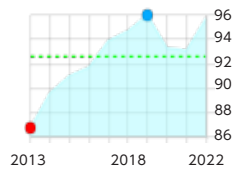
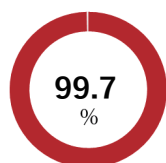
### ⑥就職状況

2022(令和4)年度の就職率は、目標に近づく結果となった。オンラインでの会社説明会・面接対策など、キャリアセンターによる様々な就職活動支援を通じて、当面は「就職率=96%超」を目標に、将来的には最終目標である「就職率=100%」を希求していく。

なお、就職者数を就職希望学生数で除した数値を就職率として学部ごとにKPIを定めている。KPIの現状は以下のとおりである。

### [二松学舎大学文学部の就職率]

就職率(%)

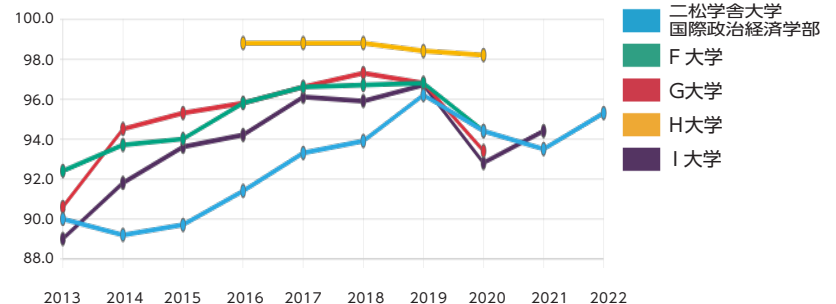
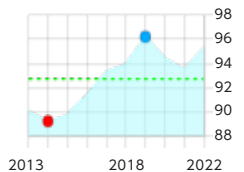
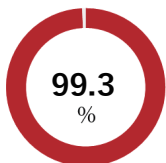


目標	実績	乖離
96.0	95.7	-0.3

ピーク	平均	ボトム
96.0	92.6	86.7

### [二松学舎大学国際政治経済学部の就職率]

就職率(%)



目標	実績	乖離
96.0	95.3	-0.7

ピーク	平均	ボトム
96.2	92.7	89.2

### (3) 附属高等学校の教育改革

#### ① 生徒の学力向上と高大連携教育

2020(令和2)年度からスタートした二松学舎大学との連携教育プログラム「二松学舎学びのコース」(高大連携)が3年目を迎え、38名(昨年度27名)の生徒が受講した。二松学舎大学への進学者を安定的に確保するシステムとして機能し始めた。

教員の指導力向上を目指し、大手予備校講師による教員向けの研修を実施した。生徒の学力向上対策として、タブレットPCを活用した1年生ベースUP講習会、夏期特別講習、2・3年生を対象に外部講師による補助講習「学舎(まなびや)」を実施した。

#### ② ICT環境の整備

2018(平成30)年度から、教員及び全生徒にタブレットPCを配布して、教育のICT化を推進している。タブレットPCの活用も6年目を迎え、自習活動、生徒や保護者とのコミュニケーションツール、成績推移やポートフォリオ機能等を活用した進路相談等に有効活用している。

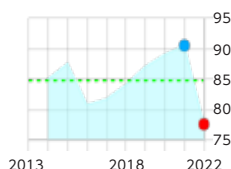
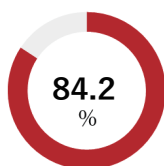
#### ③ 生徒及び保護者の満足度調査の実施

高校3年生及びその保護者を対象に満足度調査を実施した。同調査の設問中、学校生活全般に関する質問に対して「満足」「やや満足」と回答した生徒数の割合を数値化してKPIに定めている。

2020(令和2)年度から2022(令和4)年度にかけては、コロナ禍による多くの制約がある中での高校生活と なってしましたが、授業・クラブ活動・行事等については最大限の配慮を行い可能な限り実施した。

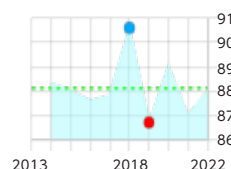
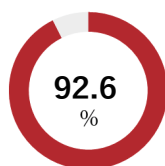
【二松学舎大学附属高等学校の生徒・保護者満足度】

生徒満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
92.0	84.2	-7.8	90.5	84.7	77.5

保護者満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	92.6	-2.4	90.6	88.1	86.7

### (4) 附属柏中学校・高等学校の教育改革

#### ① 学力向上・生徒支援への取り組みと附属柏高等学校の難関大学進学実績の向上

附属柏高等学校では、2020(令和2)年度から、図書館をリニューアルしたラーニング・コモンズを中心に、新たにスタディサプリGYMを導入し、生徒一人一人の放課後における学習サポートを強化した。また、授業では「主体的・対話的で深い学び」を目的としたアクティブラーニングを実施している。

更に充実したICT学習環境(1人1台PC体制・全教室無線LAN敷設など)を基に、「スタディーサポート」、「ファインシステム」などを用いた学習支援を行った。2022年度は授業におけるICT機器の活用頻度を調査し、増加が確認された。

学校推薦型・総合型選抜対策も強化を図り、探究活動を充実させるとともに、全教員による論文・面接対策を実施した。引き続き高い進路実績を示すことが出来ている。

#### ② 生徒募集力の強化

2022(令和4)年度は、コロナ禍での入試広報活動であったが、附属柏中学校・高等学校の入学者数は、中学校84名、高等学校382名であった。2023(令和4)年度は、中学校95名、高等学校258名の入学者を数え、引き続き好調な学生募集状況を維持している。

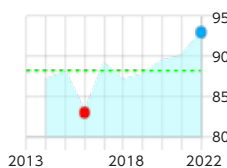
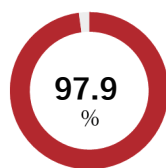
進学実績の向上が生徒募集力の強化に確実に繋がっているといえる。

#### ③ 生徒及び保護者の満足度調査の実施

中学校3年生、高校3年生及びその保護者を対象に満足度調査を実施した。同調査の設問中、学校生活全般に関する質問に対して「満足」「やや満足」と回答した生徒数の割合を数値化してKPIに定めている。当KPIの現状は以下のとおりである。上記調査の結果をうけて、今後さらなる改善につなげたい。

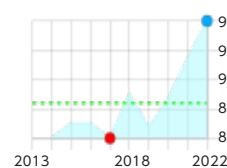
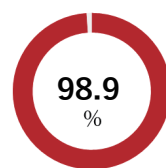
【二松学舎大学附属柏高等学校の生徒・保護者満足度】

生徒満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	93.0	-2.0	93.0	88.2	83.0

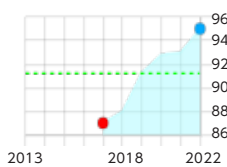
保護者満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	94.0	-1.0	94.0	88.4	86.0

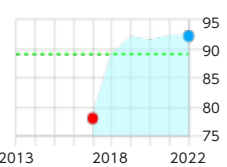
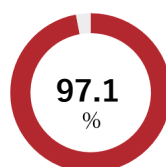
【二松学舎大学附属柏中学校の生徒・保護者満足度】

生徒満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	95.0	±0	95.0	91.2	87.0

保護者満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	92.2	-2.8	92.2	89.1	78.0

(5)財務、人材育成、評価、組織、広報、その他

①強固な財務基盤の維持、向上=R&I発行体格付け「A-/ (安定的)」を維持

株式会社格付投資情報センター (R&I) から、発行体格付け「A-/ (安定的)」 (シングルAマイナス/格付けの方向性=安定的)を18年連続で取得した。

②奨学金制度の充実と第3号基本金の増額

大学・附属高校・附属柏高校・附属柏中学校の学校別に奨学金制度を設けている。奨学金制度の充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は第3号基本金に組み入れ、奨学基金を毎年度増額することとしている。2022年度は、経済的困窮学生に対する奨学金、被災特別奨学生に対する学納金の減免、留学生への研究奨励金、奨学生入試、中洲賞・特待生への奨学金給付を実施した。

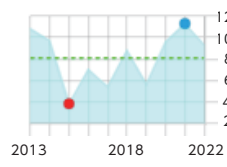
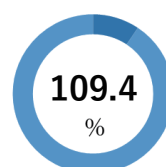
③KPIダッシュボードシステムの稼働

法人部門における主要なKPIの経年変化については、以下のとおりである。

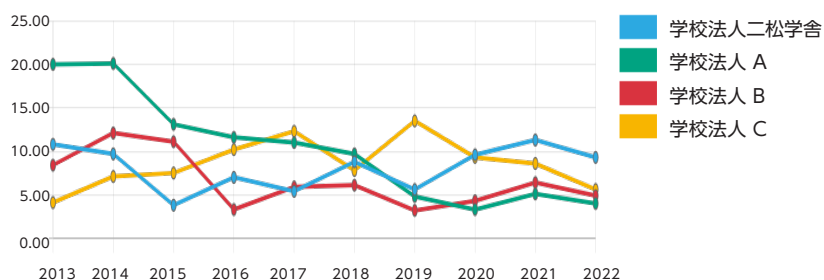
【事業活動収支差額比率】

事業活動収支計算書をもとに、基本金組入前当年度収支差額を事業活動収入で除した数値を事業活動収支差額比率という。この財務比率の数値がプラスで高ければ高いほど、自己資本比率が高く経営に余裕があることを示す。この目標値及び実績値の経年変化をKPIに定めている。当KPIの状況は次のとおりである。

事業活動収支差額比率 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
8.5	9.3	+0.8	11.3	8.1	3.8

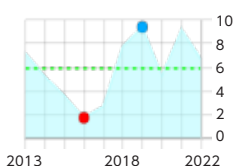
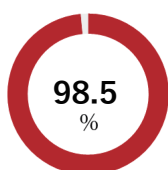




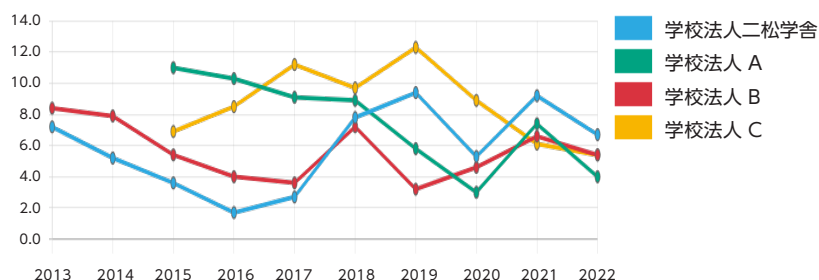
## 【経常収支差額比率】

事業活動収支計算書をもとに、経常収支差額を経常収入で除した数値を経常収支差額比率という。この財務比率がプラスで高ければ高い程、経常的な事業活動が安定していることを示す。この目標値及び実績値の経年変化をKPIに定めている。当KPIの状況は次のとおりである。

経常収支差額比率(%)



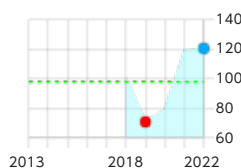
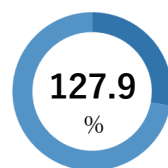
目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
6.8	6.7	-0.1	9.4	5.9	1.7



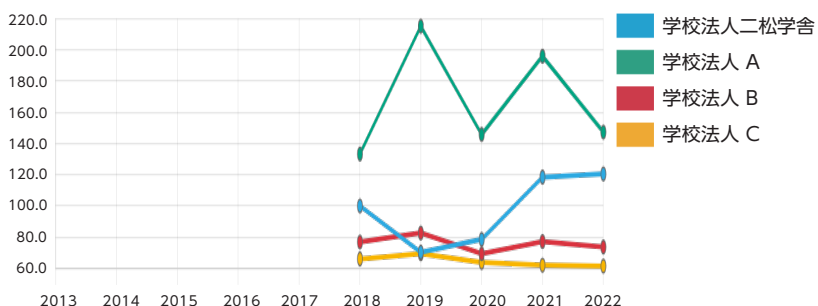
## 【知名度】

読売新聞、朝日新聞、毎日新聞及び日本経済新聞に本学関連記事が掲載された件数及び日経BPコンサルティング「大学ブランドイメージ調査」における結果を合わせて指標化したものを知名度としてKPIに定めている。当KPIの状況は次のとおりである。

知名度



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
94.2	120.5	+26.3	120.5	97.6	70.4



## 5 2022(令和4)年度アクションプランのフォロー課題について

2022(令和4)年度アクションプランに掲げている課題のうち、次の課題については重要度を考慮し、2023(令和5)年度も引き続き進捗のフォローアップを行う。

### (1) 21世紀型教育体制の構築について

国の成長分野人材育成促進策に対する検討状況について、法人全体で情報を共有する。

### (2) 奨学金制度の見直しについて

経済的困窮学生に対する奨学金制度が国・地方自治体の制度により充実化される中、本学全体の新たな枠組み構築にかかる検討を行う。

### (3) 研究レベルの維持について

ベンチマーク校に対して、研究活動のための外部資金獲得件数や獲得金額は、常にアンダーパフォームしている状態である。この傾向を改善するため、新たな教育研究活動助成制度の創設に係る検討を行う。

### (4) 難関大学への進学実績の向上について

附属高等学校では、生徒平均学力を向上させ、難関大学への進学実績の向上を目指している。そのための取り組み等についても、法人全体で情報を共有する。

### (5) 附属柏中学校の生徒募集力の強化について

附属柏中学の入学定員を維持するために、生徒募集・広報活動について、法人全体で情報を共有し、フォローアップを行う。

以上



学校法人二松学舎

## 学校法人二松学舎

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16 TEL.03-3261-7407

### 二松学舎大学

九段キャンパス：〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16 TEL.03-3261-7406

柏キャンパス：〒277-8585 千葉県柏市大井2590番地 TEL.04-7191-8751

### 二松学舎大学附属高等学校

〒102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号 TEL.03-3263-5014

### 二松学舎大学附属柏中学校・高等学校

〒277-0902 千葉県柏市大井2590番地 TEL.04-7191-3179